

岡本隆子議員からの質問

「上之郷自治会からのリニア残土に関する要望書を受けて撤回の意思は」

1. 上之郷自治会からのリニア残土に関する要望書を受けて撤回の意思は。

上之郷地区次月自治会と美佐野自治会から要望書が提出されています。次月地区は、「リニア中央新幹線トンネル工事掘削残土置き場「候補地A・B」に反対」の要望書であり、美佐野地区は「要対策土の受け入れ」について、「受け入れない」という選択肢も含めた協議を要望しています。地域住民は残土受け入れにより、環境破壊のみならず、土砂災害や水の汚染などの危険と隣り合わせの生活になるのではと不安を抱いています。要望書には「安全なものしか受け入れない」、「遮水シートは御嵩町では二十数年前に否定している」というこれまでの町長の言葉に、御嵩町としても住民の安全安心な生活を最優先に考えてくれているのだらうと、ありがたく、また誇らしく感じていたと述べられています。

通告書には書いていませんが、この通告書を出した後ですね、3月3日に平自治会から要望書が提出されています。要望内容としては、JR東海リニア中央新幹線トンネル工事に対する町の姿勢と経緯の説明を要望するものであります。

これらの要望書を町長はどのように受け止めていらっしゃるのでしょうか。また、リニア要対策土受け入れを撤回のお気持ちはありますでしょうか。まずはこの点についてご答弁をお願いいたします。

町長

岡本隆子議員の質問にお答えをいたします。リニア残土に関する質問でございます。

今回JR東海が記した、使用される予定のシートであります。私はそれを手にした時にこう思いました。科学は進歩していると。そういう事実であります。シート自体、二十数年前の物とは全く別物です。科学技術の世界は、二十数年間時は止まっていなかったと。そうも思いました。岡本議員、二十数年前のシート覚えていらっしゃるでしょうか。覚えています？その違いというのは分かります？

岡本議員

覚えていません。

町長

覚えていないということですね。

二十数年前のシートでありますけれど、中学校の体育館、向陽中学校の体育館で、後に中津川市長をお務めになった中川教授、赤青の二色の色鉛筆でシートに簡単に穴が開くんだと力説され、パフォーマンスをされました。大変話題になりました。先生はそのシートのメーカーまでおっしゃったために、有名メーカーでしたので、当社ではそんなものは造って

ないと抗議を受けられた。それから反論を受けてから中川先生は何もおっしゃらなくなってしまったということを私は記憶しております。私はそれを手にしたときに、普通に考えてこのシートは一枚の平面ならば真ん中で破れることは絶対にないだろうなということを、まあ絶対はないとは思いますが、破れるとは考えられないなと思っていました。それと同時に、問題の継ぎ足す部分、広い面積、大量の土を包み込む、封じ込めるわけですので、かなりの面積敷き詰められ、あとは上も包み込んでいくという方法になっていくのだとしたら、接続の部分が一番問題になるだろうと。これは普通に常識的に考えてそう考えれば当たり前のことだろうと思います。私が専門家の意見を聞いて、この方の話は信じられると。先ほどの中川先生ではないですけど、多分この方は撤回はされないだろうと確信しました。私が心配していることを全ておっしゃった。ポジティブに言えば、先ほど言った、一枚の途中で破れることはない、考えられないとネガティブに言えば漏れるとしたら接着の部分だと。まず、丁寧な仕事をするのだと明言されました。劣化についてもあります。このシートは紫外線によって劣化する。最終的に5m盛土をするわけですので、日にさらされることはなくなります。ただ工事の期間中、まあ6、7年ということだろうけれど、その間に劣化することはありません。明確におっしゃいました。これは私が懸念していたこと、排水、暗渠、その他心配していたことは非常に多くありましたけれど、これは信頼できる話だなということをもった根拠になっております。

町民の皆さんが、私の態度にありがたく誇らしいと感じていただけていたと。初めて知りました。2年間ですから、私にそういうことを言ってくれた人は一人もいません。心配してくれた方はあります。こんなことしていいのかと。大丈夫？町長。と言ってくれた方はいます。頑張ってくれてありがとうと言ってもらえたことはありません。そうだったの？というのが今の感想です。岡本議員は常に私に疑いを持たれますけれど、この2年間、あの発言をするまで常に疑われていた。こういうのはむしろ逆に反発したわけではありませんけれど、科学技術の世界っていうものに対して、敬意を表するということの意味では、今、科学技術の世界っていうのは完ぺきではないのは分かっています。しかし、それを信じていくより仕方ないというのが私の立場ということでもあります。今後の私のすべき協議は最終的には、万が一の時のJR東海の対応であります。万が一とは水質調査の頻度を含めて公表、対策、補償の在り方であるかと思えます。多岐に渡ってくるであろうと考えております。私は地域の方の要望書については、大変重く受け止めております。心して協議に臨みたいと思えます。引き下がれないところは引き下がらないということでもありますので、是非、その点をご理解の上、今後は岡本議員も自分の言葉で語っていただけるとありがたいと思えます。以上です。

岡本議員

ご答弁ありがとうございます。まず町長は遮水シートの件、述べられましたけれど、この件は、町長がこれまで安全なものしか受け入れないと言っておられたのが昨年の9月定

例会の前に要対策土を受け入れるということになった科学的根拠ですね、そのことの一つだと思えるんですけども、この件についてですね、私は昨年12月の一般質問で、なぜ受け入れに転じたのか、科学的根拠の説明を求めました。そしたら町長は、答弁で科学的根拠を町民に説明していくと答えられました。そして、これはこの間配られたこの議会だよりもそのように町長の答弁が書かれています。今のところ、この町長、この間の12月定例会でも非常に丁寧に説明くださったんですけども、そういったことが未だに町民に説明されていないんですけども、これについて、いつ町長は説明されるというおつもりなのかということをお伺いしたいと思います。

町長

今、まん延防止等措置が出ているというあれがありますけれど、行政としてとにかく人に集まってもらうことはしない、できないという状況だと考えています。この2年、本当に変わっていない。岡本議員よくそうやって説明会もやらないじゃないかっておっしゃるんですけど、岡本議員の責任で集めていただければ私が行きます。担当者も一緒に連れて行きます。コロナ感染というものは、行政の立場として言えば無闇に人を集めて感染が拡大したとなったら、それはできません。無理だと思いませんか。自分が責任を負う立場だとしたら。岡本さん集めていただければ、私は行きますよ。時がそういう意味では経って、5月の連休あたりで沈静化してくればとにかくやります。そういう波がありますので、良いタイミングを見計らってやらないと。私、JR東海が説明会やるって言った時もそんなもんやめろと言ったこともあります。やばいぞということも言いました。ただ、企業がおやりになることですので私には止められない。ただ、行政の関係でやるとしたら、それはできない。現状はそういうことです。やるつもりがあってもできないという、忸怩たる思いでいることくらいは理解していただきたいと思います。

岡本

まず、人に集まってもらうというふうにおっしゃいましたけれど、やり方は色々あると思うんです。町長は、前の時も紙でいいのかというふうにおっしゃったんじゃないかなと思います。もちろん、人を集めるというやり方もありますし、それから紙ベースでと言いますか、ほっとみただけでこういう経過でこういうふうに安全的根拠はここにあると考えて要対策土を受け入れることにしたとか、まず、そういったことだっただけでできるんじゃないですか。町長はいつもコロナ、コロナとおっしゃいます。確かに大切なことかもしれませんが、やり方はいろいろあると思います。ですので、町民に、まず受け入れる前のことですよ、これは。受け入れる前の段階の話です。説明をしっかりといただいてからフォーラムに入っていたいただきたいと思います。それで、これは質問ではありませんけれど、地元でも3自治会、それぞれ内容が異なっています。町長は、この要望書をとても重く受け止めているとおっしゃいましたけれども、もう要望書からは受け入れそのものに対する不安だけでなく、受け入れ

令和4年御嵩町議会第1回定例会
3月9日(水)

未定稿 (御嵩町役場企画課作成)

への説明がされていない、そのことに疑問を抱いておられるということがとてもよく分かります。そのことをしっかり理解していただき、町民への説明、いろんなやり方での説明を是非お願いしたいと思います。

以上